

## ごあいさつ

実行委員長：檜垣立哉(大阪大学教授)

賭けるということは、生きることそのものでもあります。仕事であれ遊びであれ、人生を生きることにおいてわれわれはつねに何かを賭けており、何かの賭けに勝ち、また負けています。そうでない人生などはありません。これは、生のリアリティがどこかで必ず偶然性という様相、出逢いというあり方とむすびついていることともかわるでしょう。そしてその偶然にどう対応するかで、われわれの自発性のありようも決まってくるのです。

今回は三つのセッションをたてて、それぞれの方向から賭けるという生のリアリティに迫ればと考えております。

ご参加のほど、よろしく願いいたします。

## 申込方法

すべての企画に、どなたでもご参加いただけます。(事前申し込み不要)

**参加費** 会員・非会員：500円(資料代)

## 懇親会

1日目(土)のプログラム終了後、懇親会を行います。皆様ふるってご参加ください。

会場：大阪大学医学部附属病院14階 スカイレストラン

日時：5月21日(土) 18:00 -

参加費：一般 6000円

学生・非常勤 4000円(当日お申込みいただけます)

## お問合せ

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘1番2号

大阪大学人間科学研究科 檜垣研究室内

第36回日本記号学会大会事務局

higaki@hus.osaka-u.ac.jp

## アクセス

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/access.html>



## 伊丹空港からお越しの場合

モノレール：「阪大病院前」下車

(大阪空港駅→万博公園駅経由「彩都西」行き 25分)

## 新大阪からお越しの場合

電車：JR京都線「茨木駅」下車

→バス：(近鉄バス)「阪大医学部前」下車

(JR茨木駅→「阪大本部前」(24系統)行き 20分)

もしくは

電車：地下鉄御堂筋線「千里中央駅」下車

→モノレール：「阪大病院前」下車

(千里中央駅→万博公園駅経由「彩都西」行き 15分)

\*バスは、土曜日と日曜日でダイヤが異なりますのでご注意ください。

日本記号学会第36回大会



開催日：

2016年5月21日(土)、22日(日)

場所：

大阪大学 (吹田キャンパス)

人間科学研究科 51 教室

(分科会A:41教室、分科会B:44教室)

jass

日本記号学会第36回大会

「Bet or Die 賭博の記号論」

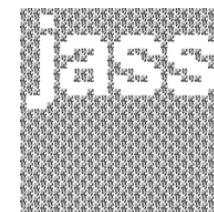
2016年5月21日(土)、22日(日)

大阪大学(吹田キャンパス)

人間科学研究科5階 51 教室

※22日(日)研究発表は4階

主催：日本記号学会事務局



## 5月21日(土)

- 受付(人間科学研究科5階51教室前)
- セッション(人間科学研究科5階51教室)

12:30	受付開始
13:00	総会
13:45 -14:00	開会の辞(檜垣立哉)
14:00 -15:20	セッション1

### 賭けることのロジック 「偶然と必然と様相の潰れ」

パネリスト：入不二基義(青山学院大学 哲学)  
問題提起：檜垣立哉(大阪大学 哲学/現代思想)  
賭けがもつ現実との関わりのロジックを、様相論という純粋思考の領域から問い詰めます。これは乾いたロジックの世界ではなく、偶然性と戯れに充ちた、生きたロジックとは何かをときあかすでしょう。

15:30 -17:30 セッション2

### 賭ける瞬間/賭ける現場 競馬場で遭おう！

パネリスト：  
植島啓司(京都造形芸術大学 人類学)  
杉本清(元関西テレビアナウンサー)  
\*杉本清氏は17時退場の予定です。

特別参加：坂井直樹(週刊競馬ブック・トラックマン)  
司会：檜垣立哉(大阪大学 哲学/現代思想)

競馬という事例を軸に、賭けるもの(競馬の快楽)・実況するもの(競馬を語ることの賭け)・予想するもの(予想するという賭け)という三つの立場から、まさに賭けの現場がどのように成立しているのかを、映像も交えながら座談会形式で提示します。見ることも、実況することも、予想することもすべて賭けの現場です。

18:00 - 懇親会  
(大阪大学医学部附属病院14階 スカイレストラン)

## 5月22日(日) ※22日(日)の昼食は各自でご準備ください。(キャンパス内の食堂は営業していません)

- 研究発表(人間科学研究科4階) 分科会A:41教室、分科会B:44教室
- セッション(人間科学研究科5階51教室)

10:00 -11:40

### 学会員による研究発表 ★

13:30 -16:30 セッション3

### ギャンブルのメディア論 ——麻雀・競馬・パチスロ

パネリスト：  
瓜生吉則(立命館大学 メディア論/文化社会学)  
吉村和真(京都精華大学 思想史/マンガ研究)  
吉田寛(立命館大学 感性学/ゲーム研究)  
問題提起・進行：  
佐藤守弘(京都精華大学、芸術学/視覚文化論)  
「する」ものだけでなく「見る/読む」ものでもある賭けをテーマにしてみます。賭けは、新聞/雑誌やラジオ/テレビなどのなかで、フィクションであれ勝ち方指南であれ、さまざまに表象されてきました。麻雀、競馬、パチスロを巡るゲーム/ギャンブルとメディアの関係を、視覚文化論、社会学、マンガ研究、感性学のさまざまな立場からとらえなおします。

### ★学会員による研究発表(分科会)

5月22日(日) 10:00 -11:40  
会場：人間科学研究科4階

#### ■分科会A(41教室) 司会：吉岡洋

【発表1】  
「《襷》に対する情熱：ガエタン・ガシアン・ド・クレランボー研究」  
安齋詩歩子(横浜国立大学大学院)

【発表2】  
「パロックの館——ジル・ドゥルーズのライブニッツ解釈におけるアレゴリーとしての建築について」  
佐原浩一郎(大阪大学大学院)

【発表3】  
「長崎・爆心地の矢印——矢羽型標柱は何を示したか」  
小田原のどか(聚珍社)

#### ■分科会B(44教室) 司会：水島久光

【発表1】  
「人工知能理論と生態心理学の交点」  
伊藤京平(立命館大学)

【発表2】  
「人工知能と記号"解釈"を巡る論点整理  
～Googleの人工知能は猫を"認識"しているか?～」  
椋本輔(横浜国立大学)

【発表3】  
「パースの合成写真の比喩と自己概念の一般化」  
加藤隆文(名古屋大学・日本学術振興会特別研究員PD)